**第７回登別市市民自治推進委員会　産業躍動部会議事録**

（敬称略）

◆ 開催日時：平成２８年１０月３１日（月）　１８時３０分～

◆ 開催場所：アーニス２階　会議室

◆ 出席部会員：副部会長　川田　弘教

　　　　 　　部会員　 木村　義恭

　　　　　　　　　　　　 近井　一夫

 吉田　武史

　　　　　　　　　　 　　志水　孝暢（協働推進庁内委員会部会長）

【観光経済部次長】

　　　　　　　　　　　　 井上　昭人（協働推進庁内委員会副部会長）

【観光経済部商工労政グループ総括主幹】

◆ 欠席部会員：部会長　　髙橋　弘康

　　　　　　　 部会員　　安達　陽子

小川　賢

◆ アドバイザー： 河内 邦夫【室蘭工業大学大学院工学研究科助教】

◆ 事　務　局：　　　　　笠井　康之【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

　　　　　　　 　　　　　早坂　晃正【市民生活部市民協働グループ担当員】

◆ 議 題：「登別温泉」の泉質や効能について

**≪事務局≫**

前回の産業躍動部会で話をした中で、取り組みとして、料理教室の実施と温泉の効能についての調査を行いたいという話がありまして、温泉の効能についての調査ということで、本日、アドバイザーという形で室蘭工業大学の環境科学の防災研究センターで、大学院の工学研究科の助教をされております、地熱利用システムの研究室代表の河内先生に、お忙しい中時間を割いて来ていただいております。皆さんから温泉の有効活用などの関係で、質問がありましたら、色々お答えしていただけると思いますので、よろしくお願いします。

**≪アドバイザー≫**

元々、温泉だけではなくて、資源全般の調査をしてきたのですが、原子力の時代になり、私はお役ごめんだったのですが、３．１１以来、自然エネルギーが注目されまして、何十年も休んでいた本業で、何かお役に立てることがないかということで、こういう場にお邪魔させていただける機会ができたのかなと思っております。

昨年度、登別温泉の泉質について、調査した結果があるので、登別温泉のほぼ全泉源については、９５パーセントくらいは理解しているつもりでいます。ただ、泉源は、持ち主もおりますし、公表できないので、資料など皆さんにお配りするということはできませんが、できるだけご紹介させていただければと思っております。

また、ここ３年、温泉地域を視察させていただいて、地熱以外にも温泉の質についての実感を得ております。それから理解促進事業で、同じ大学の建築の先生と一緒に温泉のまちのまちづくりということに携わり視察などに行っておりますので、そういうものも活用していただきたいと思っております。微力でありますけれど、何かありましたらご質問ください。

**≪事務局≫**

前回の部会の中で、温泉の活用について、登別の代表的な泉質には硫黄泉があり、ほかの温泉地と何か違うのか。また、特徴など何かないのかという話があり、あるのであればＰＲして、何かできないのかという話がありました。その中で、専門の方に質問できればとなり、河内先生に来ていただいています。皆さんのから何か聞きたいことがありましたら、質問していただければと思います。

**≪部会員≫**

前回までに、登別の各分野で健康について取り組んでいこうということで、産業のメインの１つである観光の中から、健康に結び付けていくという話の中で、各温泉地の宿泊施設などに行くと、お湯の効能などについて泉質別に表示されているのですが、保健所に聞くと、何々泉は何に効くといった形式上書かれているそうで、ＰＲ度が低くもう一歩踏み込んだ説得力のある材料がないかなということで、先生に数値から効能などを教えていただければと思います。

もう１つ個人的に興味深いことがありまして、姉妹温泉の草津温泉など各地に入る機会があるのですけれど、草津は泉質主義というキャッチフレーズをあげて、うちの泉質はピカイチだとお客さんにＰＲしています。草津と登別のどちらが濃いかなど数値的にわかったりするのでしょうか。

**≪アドバイザー≫**

１９４８年に温泉法というのができて、その温泉法の中で２５℃以上のものは温泉として、２５℃に満たないもので、必要な成分をもっているものを、冷泉として扱うとしており、その中で、医療効果の期待できるものに対して種類分けされた成分表があります。すなわち、保健所が発行するときの基本になる数値ができたのです。それに基づいて１０種類があり、単純温泉、単純炭酸泉、食塩泉、重曹泉、重炭酸土類泉、硫酸塩泉、鉄泉、硫黄泉、酸性泉、放射能泉に分けられ、この温泉は何ですと書いてあるのです。それに対して、効能と言うのが付帯しており、例えば、食塩泉は温かさが残るので、正確ではありませんが、冷え症に良いなどがあるのです。

例えば、登別温泉のこの井戸は、その中のこの成分が何グラム、だいたい水1000グラムに対して何グラム入っていると書いてあります。水1000グラムの内１グラムであれば薄い、それが５グラムあれば濃いのですけれども、濃いから何に効くということを書いているわけではないのです。

ただ、ＪＣＨＯにある温泉を飲むと胃腸病に効くということを、病院関係者から聞いたことがあります。医者ではないのではっきりとしたことはわかりませんが、例えばその温泉を病院で研究した結果、飲めるものとして医療用に使うというケースがあれば、胃腸病に効能があるとなります。もしそれを外に出すのであれば、病院が証明するという形であり、国が証明する形ではないので利用できるのかわかりません。

今はクローズしているのですが、次にどこが使うかなどはわかりませんが欲しい人もいるのではと思いますので。

それから、明ばん泉というのは、毎分30リットルくらいしかなく、あれはすべてさぎり湯にいっているのです。元は、登別パラダイスにいっていたのですけれど、非常に良いお湯だと私も思いますし、昔から病気の治癒に良い、非常に肌にやさしいなどといったお湯ですが、何に良いかというのは基本的に入った人の感覚です。ただそれを取り上げても使えるのは、さぎり湯だけですので、温泉街として登別として、何を言うかといったときに、既存の利用形態がありますので、その辺をどうするか考える必要があります。

別府のように、あちこちに色々なものが出ていて、それを池や日帰りの温泉を造るなどをしている場所では、ある程度地域的なものを宣伝できるかと思います。

登別温泉は、基本的に地獄谷や大湯沼からお湯を引いていますので、お湯の流れは決まっています。その中で、どう全体のプラスになるように使うかということを考えていただければ、実際どう使ったら良いのかというのは、皆さんで知恵を出して考えていただければと思います。

**≪部会員≫**

中国や台湾、ドイツなどは、旅行に来て体の疲れを癒すといった医療的というか、体の悪いところなどを治すための目的で入る温泉地が多いと思うのですけれど、日本はそのような温泉がまだまだ少ないかなと思うのですが、登別でもそのような利用方法は可能ですか。

**≪アドバイザー≫**

カルルス温泉は、もともと保養地だったので、そういう意味ではそういう場所に選べますが、そこをどう利用できるかですね。

欧米や、フィンランドや北欧では、そういう利用の仕方を考えていますので、そういう形で考えれば、現実的には可能だと思うのです。

**≪部会員≫**

ＪＣＨＯの跡地を温泉療養施設的な利用はできないのかなと。それもまた、うちの部会にぴったりなのかなと思っています。

**≪庁内委員≫**

本題は、市でやるわけではないので、そういう考えを持つ方が、事業者としてこの土地に来てやってもらえるかということですね。

**≪部会員≫**

　ＪＣＨＯのところに泉源があるわけではないのですか。

**≪アドバイザー≫**

　ないです。

**≪部会員≫**

　ＪＣＨＯと同じ井戸のお湯を使っているところはないのですか。

**≪アドバイザー≫**

　ないです。

調べさせていただいたので、ＪＣＨＯの医療用の温泉はそんな量があるわけではないのです。

ただ、一般的に皆さんに配っている硫黄泉はＪＣＨＯにも通っているので、それは止めているのです。

**≪部会員≫**

温泉会社ではちょうど需要と供給がぴったりぐらいだという話で聞いていますが。

**≪アドバイザー≫**

自然流出ですので。

それから登別の地獄谷というのは、出てきたものを100パーセント集めて使っているわけではなく、出てきたものプラス沢水や地下水などを混ぜて、温度を下げるということもありますし、量を増やすということにもなります。奥の湯もそうなのですが、潤沢にあるわけではないのです。やはり雨が降らなくなると量は減ります。あるからといっていくらでも配ることはできないので、そういう意味では、余っているわけではないですね。

**≪庁内委員≫**

どこの泉源がどうかというよりは、さっきおっしゃっていたように、同じ源泉でもあそこの温泉より、登別温泉の源泉のほうが優れているというところがもし仮にあるとすれば、登別の温泉の売りになるのではないかという議論をしていたわけです。

**≪部会員≫**

例えば、日本一濃いというキャッチフレーズにしたとして、何を根拠にと言われたときに、これが何パーセント、登別はこれだけ成分が含まれているんだよという裏づけがあれば、あえてどこよりも上と言う必要もないと思います。

**≪アドバイザー≫**

神恵内の温泉で濃くてすごくＰＲしているところがありますよね。塩分濃度がすごく高いと。

**≪庁内委員≫**

登別の温泉のここの部分は、体に効くというのは薬事法か何かで具体的に謳えないのですよね。ここの部分は非常に高いという値くらいしかＰＲはできないですね。

**≪アドバイザー≫**

登別観光協会のホームページで、登別は９種類あるというのが書いてありますね。

東北の丸子温泉に行ったときは、おたくも９種類ありますかと言われました。温泉に関わる人にとって、種類が多いということが１つのＰＲであるということですね。

しかし、９より10のほうが良いかとなると、そういうわけではないので。ただ温泉の濃さで言ってもここが一番濃いわけではないので、もっと濃いところもあるし、私は私で好きな温泉はいくつかあります。

登別は新しい年代の温泉なのです。火山の洞爺湖も含めて。古い九州では黒川温泉など、ああいうところは古いです。登別であれば、古いのはやはりカルルスです。新しい火山だから硫黄が多くて硫黄がたくさんあるのですが、古いところは、古いゆえに肌のあたりがよく、東北で言えば岳温泉というのがあります。お湯が良いのもありますけれど、街の雰囲気が無理をしていないというか。黒川温泉も落ち着いた小さな宿の集まりで、若い人がきます。

全国的に良いというのは口コミで、それが大きいと思います。そのときに何に気づいてもらって、宣伝してもらえるのか、ここの街で何をつくるかということですね。

新潟に視察に行ったときに、福島の土湯温泉に登別の視察でも行きました。そこでは、バイナリーの発電を造って、このお湯を温泉街に供給しているのですけれど、昔は宴会などでみんなで温泉へ行き、騒いで帰ってくる。そういう時代も終わり、また、震災が起こりどんどんさびれてしまって、何とかしようということで、小水力が140キロワット、400キロワットのバイナリー２つで色々なことを始めているのですが、最初は元市議の方が一人で個人的に会社を創り、人を呼び込もうとツアーの企画や蒸し野菜などに取り組んでいて、市には全然相手にされずにいたそうです。今は、この人に共感している理事の人と、この人と働きたいという若い２人を雇っています。

地元の人ではなく、他の地域から人が来てくれて、この街の良さを発信しようとしてくれているのです。だから、地元の人が考えたものと、他の地域から来た人の力が一緒になって何をやるか考える必要があります。そこが一番で、この部会もそうだと思います。登別温泉として何をということが必要だと思います。最初はやはり誰がやるか。人ですね。人がいれば、それに対して国や県、道の補助金などを利用して、次に、それを自然に行う事で雑誌に取り扱ってくれるようになり、次の人を集めることになっていくのかと思います。

九州はそうだと思うのですけれど、そういうことに取り組み、色々なことを始めているところがあり、それが温泉を使って何をするかという話だと思うのです。

地元に熱心な人がいるということで、その辺のことをぜひ考えていただければと思います。

**≪副部会長≫**

テーマが健康ということで、流れてきているので、登別温泉の温泉をもう1度掘り起こして、見直して、効能に対してもう少し説得力のある根拠を調べられたら良いという話でした。それも含めて、健康だけではなくて、温泉の活用法と言ったように、バイナリーなど、今まで温泉に浸かり気持ちが良いという利用しかしてないですが、もっと活用法があるのではないのかなと思います。

地元でできるものを何かということですよね。狭く見ないで色々なものを見る必要があります。

単純に温泉は入るものという考えなのですが、先程話がありました飲める温泉は飲むということや化粧品や薬品などに製品化するという話もありました。そのような活用法もないのかなと。

**≪部会員≫**

登別温泉をうまく使い健康と結びつけると、効能と湯治場の雰囲気を醸し出し、近代化している中に、昔の湯治場のような、打たせ湯があり、泉源公園の横に４、５人でいっぱいになるようなちょっとした露天風呂があるなど、近代化していくこれからの温泉のまちづくりの中に、昔ながらの面影が出せれば良いのではという思いがあります。

ほかの温泉地も似ていると思うのです。石畳や小さいお土産屋さんなど、似た雰囲気になってしまい、昔の良い雰囲気はずっと後世に残したいという思いがあり、登別らしさで言えば打たせ湯など、それを後世に残していければなと思います。

湯治も、また健康に結びつくのかなと思うのですが、今は湯治客が少ないですね。ホテルも高級化して単価も高くなり、ちょっとやそっとでこれなくなりましたものね。

**≪アドバイザー≫**

土湯温泉も、最初から順調であったわけでなく、各旅館とも商売なので仲が良いわけではないですからね。その中で何を共通でやるというのが非常に難しく、誰がどう調整するかということも必要になりますね。

先日、理解促進で商工会議所の方と一緒に組合と話に行ったときに、今後、商工会議所が温泉街とどう付き合うか、重要な話をしていました。それは、街全体をどうするかという話でして、お互いの理解、調整を取らないと難しいものであり、今まではバラバラでした。

住んでいる方が、その辺をうまくやるということが一番の課題だと思います。

それには温泉というのは、非常に良いキーワードですので、温泉をいかに使ってまちを活性化していくかということです。

私は、温泉の良さというのはよく知っていますが、やるのは私ではないです。

**≪庁内委員≫**

新聞などでご承知かと思うのですけれど、登別の円卓会議ということで組織化しまして、これには商工会議所が中心になって、市、観光協会、旅館組合として今後登別のまちはどうあるべきかという協議の場を設けて、色々と動いていただいていますので、おっしゃるように観光協会自体が登別温泉の観光協会ということで、まわってきたようにも私どもも思いますし、今後は商工、業者の皆さんとともに登別の基幹産業の観光と連携しながら、登別の活性化に向けて、手を取り合って歩んでいければなという動きになってきています。

**≪事務局≫**

産業躍動部会の泉質のところで、それぞれ泉源が違って中身も違うので、それを登別温泉全体としてどこが良いというのは、難しいということですか。

**≪アドバイザー≫**

あのホテルにはあるけれど、このホテルにはない。そういうことになってしまします。それを浮きだたせてしまいますね。

**≪部会員≫**

もう１つ質問ですが、昔、地獄谷の真ん中で、温泉玉子を作っていた場所がありますよね。昔は黒い玉子だったのですが、今は透明の普通の色で、あれは鉄分か何かがなくなり泉質が変わったからですか。

**≪アドバイザー≫**

先々週に、松之山温泉という新潟県十日町のところに行きました。そこは、温泉玉子を始めたと、そこの人が、一晩入れていたらそんな色になったと言っていました。結局泉質もあるのですけれど、どのくらい入れるとか、温度や成分によって変わっていますので、できる色や味は変わります。どんなふうにできるかというのは、色々な温泉で試してみるのもおもしろいかもしれません。

そういう温泉の利用の方法というのは、その街の中にどう取り入れていくか、その辺を少しずつでも実現できれば、全体のプラスにはなると思います。その意味では、登別温泉は泉質が多いので、いろんな温泉玉子ができるのではないでしょうか。

**≪庁内委員≫**

市で、平成25年度に観光客に対して動態調査をしたときに、観光のニーズが、今までの「見る観光」から、「体験型」が主流になってきて、一番多かったのが、温泉玉子づくりなんかできないだろうかというのが、非常に多かったです。実際に今でていた温泉玉子を作りたいと言って、作れるような場所はあるのですか。

**≪アドバイザー≫**

鳴子温泉は自分で作るところを造ったのです。

だからそんなに奥の湯まで行かなくても、第一滝本館のところの手前から全部落ちてきているので、あの辺に何か、それこそ泉源公園でもいいですね。今使っていない間欠泉。あれは95度くらい熱いので、そういう場所を利用すればできるのではないかと思います。

**≪事務局≫**

味は泉質によって変わるのですか。

**≪アドバイザー≫**

変わると思います。

泉質によっては、食塩泉なら本当に辛くなりますね。この間行った松之山温泉もそうでした。

洞爺湖の温泉組合の方のところでも、温泉玉子をやっているし、あの人はアイデアマンですからね。

**≪庁内委員≫**

飲める温泉は、先生がおっしゃったＪＣＨＯ以外で、ほかに１カ所あると聞いています。

**≪部会員≫**

第一滝本のところにあります。

**≪部会員≫**

　本州の古い温泉地は、温泉をうまく生活に取り込んでいて、野菜を茹でたりと、温泉を常に日常に取り込んでいますよね。北海道の温泉地は、お風呂として入る以外、利用していることをあまり聞いたことがないと思いますし、その辺が本州の昔の温泉地との違いなのかなと思います。

**≪事務局≫**

　皆さん、そのほか先生に聞いておきたいことは大丈夫ですか。

**≪アドバイザー≫**

　温泉のお風呂だけではなくて、登別の色々な海の幸もそうですし、乳製品もそうですけれど、その辺をうまく結び付けてほしいです。

やる気だけだと思うので、大きなものも必要ないと思います。何か新しいものをと思います。

**≪庁内委員≫**

地元の人と、よそから来た人と合わさって何をするか。誰がするかというところですね。

**≪副部会長≫**

　最近、そこにつきますね。

**≪部会員≫**

　温泉玉子なら、観光協会が行って、定期的に一箱ずつなどわけてくれるかもしれないですね。

ただ、ちゃんとした流通ルートがあるから難しいですかね。

**≪庁内委員≫**

　本当に観光客が体験を望むのであれば、私はビジネスになると思うのです。

**≪アドバイザー≫**

　そういう何かよそから持ってきたものだけれど、ここには変わったものがある、ここのものじゃなくてもできれば目玉にはなります。

　温泉玉子をお湯に入れたら、字が出るなどもありますね。

**≪部会員≫**

　昔、赤と青のものを作ったことがあります。地獄の鬼たまごで、赤鬼と青鬼ということで、ひびが入ったところを剥くと、クモの巣状に赤や青の線がつくのです。それを見た何人かのお客さんに添加物と言われてやめました。

**≪アドバイザー≫**

　殻におみくじみたいなものを入れても面白いですね。

そういうアイデアが好きなのは洞爺湖の方です。あちこちで色々なことをやっていますよ。

**≪庁内委員≫**

　昔、搾りたての牛乳が濃いから沸かしてよく飲みましたよね。ただ健康で言うのであれば、登別の生乳というのが北海道でも乳質が非常にいいと。雑菌が非常に少ないし、乳質が高く、これは登別の酪農館で、数が少ないのも売りなのですね。今幸いにも登別市内の学校給食にはすべて登別牛乳を提供していますけれど、それも本当は売りなのですよね。

**≪部会員≫**

　どこかの温泉ホテルに入っているのですか。

**≪庁内委員≫**

　使っているところはあります。

**≪アドバイザー≫**

　湯沢温泉みたいに、温泉の熱を利用して低温殺菌を行い、それを販売しているところもあります。ですから、殺菌を温泉の中のどこかで行うなどの方法もありますね。

**≪部会員≫**

　札内の肉牛に登別温泉を飲ませていますというのもありかもしれないです。

**≪アドバイザー≫**

　ヨーグルトやチーズなどの加工品のほうが良いかもしれませんね。

**≪部会員≫**

　温泉熱で低温殺菌というのもおもしろいですね。

**≪副部会長≫**

　先生、本日は、お忙しいところありがとうございます。

　これがという話がまとまった感じはないですけれど、前回に引き続きイメージや話題性が広がったと思います。本日はありがとうございました。

本日出た温泉玉子や、牛に温泉を飲ませるなど、今までにない発想ができたと思います。具体的に誰がやるのかということが、一番のキーポイントみたいですので、その辺は新しい会頭に相談しながら、今までにない動きをこの部会からも作っていけたらと思いますので、また何かありましたら、よろしくお願いいたします。

**≪庁内委員≫**

　どう結びつくとはわからないけれど、温泉玉子は良いと思います。

**≪副部会長≫**

　次回は11月16日です。

　お疲れ様でした。

**【次回会議について】**

・平成２８年１１月１６日

・予算要求の内容について